



▲ 柵木課長（左）、松本主任（中）、介護職員・秋吉さん（右）

一般財団法人日本老人福祉財団（小口明彦理事長）が運営する介護付き有料老人ホーム佐倉（ゆうゆうの里）は、介護を受けるために入居するのではなく、できるだけ早く入居し、第二の人生を楽しんでいたことを目指したサービスを提供している。同施設には日常的に介護が必要な方のために、24時間安心の介護を提供するケアセンターが設置されている。入居者の安全と夜勤職員の負担軽減を目的に、介護DX推進の一環として昨年8月にケアセンターの全111床に「見守りライフ」を導入した。

夜勤職員の負担が大きく、安全を担保できない不安感が

見守りシステムに関して以前から補助金を使って一部の施設に数台規模で導入、使用していたこともあった。しかしながら、なかなか全床導入に踏み切れず、情報収集のために訪れた展示会で「見守りライフ」と出会った。

佐倉（ゆうゆうの里）では、夜勤職員にかかる負担が大きいことと、それによって安全な介護ができないのではないかという強い不安感を職員が抱えていた。例えば、転倒リスクのある入居者が深夜になっても落ち着かないことや、ナースコールやマットセンサからの通知が重なって対応に追われてしまうこと

が多々あった。

マットレスに敷くタイプのセンサーやカメラセンサー等の導入も検討したが、反応速度や精度が求めているレベルではなく、また価格が高く予算に合わないこともあり導入を見送った。「見守りライフ」は入居者の動きを検知するだけでなく、夜間の睡眠状況といった生活リズムや体重、脈拍・呼吸数などの把握ができる。検知精度・速度ともに高水準で施設のニーズを満たす上、価格的にも十分に費用対効果を見込めると感じ導入を決めた。また、施設で使用している介護記録システムの「ケアカルテ」（ケアコネクトジャパン社）や既存のナースコールへの連携が可能で、カメラ機能を必要な方だけに追加ができる点も導入の決め手となった。

安否確認だけの訪室を7割削減し、入居者の睡眠状況が大幅に改善

「見守りライフ」を活用することで、夜間の安否確認だけの訪室を38件から10件に削減することに成功した。

介護のデジタル化で夜間訪室を削減し、入居者の睡眠時間が約30分増加



▲ 夜間の安否確認に「見守りライフ」を活用

これにより、職員の負担軽減はもちろん、入居者の睡眠状況が大幅に改善された。9名の入居者に対して行っていた夜間3回の安否確認を全て「見守りライフ」で行ったところ、睡眠時間が平均27分増加した。そのうちの、21分は深い睡眠となっており、睡眠の改善に効果を発揮している。睡眠状況が可視化されたことで睡眠不足による体調不良に気づくことができ、ケアプランの見直しや、医師にデータを共有し薬の見直しにつながった事例もある。このように「見守りライフ」は、入居者のQOL向上と職員の負担軽減に役立っている。

また、ベッドからの転倒転落事故についても「見守りライフ」の導入で、月平均19・5件から10件に減少した。半減したと明言するには長期的に検証する必要があるが、入居者の安全確保に効果的だと評価している。

重度化予防や自立支援のために

すでに「見守りライフ」の導入効果を実感している部分もあるが、ようやく新

しいシステムに慣れてきたのが現状だ。これからも効果検証を行い、その結果を踏まえて法人内での展開を進めていきたい。

「見守りライフ」だけでなく、ノーリフトケアや施設毎に取り組んでいるアクティビティなどの複合的な効果で、重度化予防や自立支援につなげていき、結果的に介護時間の削減を目指していきたいと考えた。



▲ 申込フォームQRコード

無料オンラインセミナー開催

介護人財の育成について ~現場革新を实践できる人財の育成に向けて~

開催日時： 2024年6月11日 10:00~11:15

講師：公益社団法人かながわ福祉サービス振興会

理事長 瀬戸恒彦氏

申込方法：下記URLもしくはQRコードよりお申込みください。

申込フォーム：https://www.totec-mlife.jp/seminar/2024_0611.html

お問合せ先 **トーテックアメニティ株式会社**

052-533-6919 (受付時間：9:00~17:30)

mlife_mkt@totec.co.jp